



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY



名古屋大学特定基金

次世代保健医療リーダー育成支援事業



名古屋大学 医学部 保健学科
大学院医学系研究科（保健学）



ご支援のお願い

近年、社会全体の情報化とともに医療情報科学はめざましい発展を続けています。日本が直面する少子高齢化によって起こる諸問題に対しても、情報科学技術を活用した健康医療ビッグデータ（健康・医療・介護・ゲノムなど）の構築・利用による医療の効率化、健康寿命の延伸、個人に合った医療の提供など、全ての国民の健康的な生活を実現するための計画が進んでいます。さらには、AI、医療用ロボット等の最先端技術の医療への導入、ICT技術を利用した遠隔医療など、保健医療の形も大きく変わりつつあります。そして、これらの変化に適応し、その進展に貢献できる保健医療人材の育成はますます重要になっています。

こうした中、名古屋大学医学部保健学科・医学系研究科（保健学）においても、臨床現場である病院との連携に加え、従来の専門領域に情報科学を取り入れた研究・教育の進展に努め、次世代の保健医療をリードしていく人材の育成に取り組んでいます。

大幸キャンパスにおける学生教育・研究環境整備、若手研究者支援がより充実したものとなれば、我々の取り組みはさらに加速されます。是非とも名古屋大学基金「次世代保健医療リーダー支援事業」へのご協力と賜りたいと思います。よろしくお願いたします。



医学部保健学科学科長・医学系研究科保健学統括専攻長
石川 哲也

名古屋大学基金

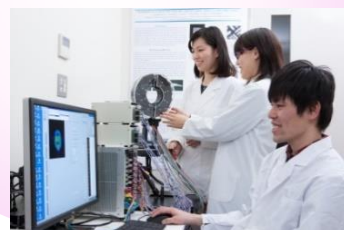
「次世代保健医療リーダー育成支援事業」への協力のお願い

名古屋大学医学部保健学科は、平成9年（1997年）に、全国でも数少ない5専攻（看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学）を有する医学部保健学科として設置されました。その源流は、明治27年（1894年）愛知医学校での看護婦養成所設置に始まり、100年以上の歴史を有しています。平成24年（2012年）には、大学院医学系研究科を中心とした研究・教育組織へと組織強化を行い、大幸キャンパスでは大学院医学系研究科 看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻（以下「医学系研究科(保健学)」という。）として一層の研究・教育の充実を図っています。



名古屋大学医学部保健学科・医学系研究科(保健学)は高度先進医療の急速な発展、少子高齢化 社会の進行、さらには国際化の進む社会に対応して、将来の保健医療を担うリーダーとなる中核的人材を育成するとともに、次世代保健医療の新たな発展につながる保健医療学研究の推進に寄与しています。

2004年の国立大学法人化以降、大学への運営費交付金が年々減少し、大学運営も厳しさが増していますが、前途有能な学部学生、大学院学生のための教育、研究環境の改善、充実を行う予算の確保・充実に努めているところです。



このたび、「名古屋大学基金」に寄附金を特定の部局事業に活用できる「特定基金」制度が新設されました。医学部保健学科・医学系研究科(保健学)では、この「特定基金」制度を用いて「次世代保健医療リーダー人材育成事業」を創設し、皆様のご支援により、学部学生、大学院学生のための教育、研究環境の改善、充実を進めていきたいと考えております。趣旨にご賛同いただき、格段のご協力を賜りますことをよろしくお願い申し上げます。

支援事業の概要

1. 「次世代保健医療リーダー人材育成事業」の概要

ご寄附いただいた基金は、その一部を名古屋大学基金として運営しますが、医学部保健学科・医学系研究科(保健学)が行う以下の事業の推進に使用させていただきます。

- (1) 学生教育環境整備事業 学生に最高水準のグローバルに活躍する次世代保健医療系人材の教育を行うため、講義室、セミナー室の教育環境の整備、図書館や学生実習室の施設、備品、実習機器等の充実に活用いたします。



学生のために設営された、保健学図書室内のGroup Learning Roomや学生ホール

- (2) 若手研究者支援事業 国際的に活躍できる大学院学生、若手研究者の育成や研究マインドのある保健医療専門職の育成を目的として海外提携校との交流事業における海外派遣費の支援や大幸キャンパスにある脳とこころの研究センター、領域融合型研究プロジェクトの推進などの研究環境の充実に活用いたします。さらに、大学院学生、若手研究者が行う萌芽的研究への研究費支援を行います。



海外から講師を招聘して、外国語でのセミナーを開催し学生とのセッションがおこなわれた

- (3) その他ご寄附いただく個人、法人、団体などが特定の用途を希望される場合は、その意向に沿って有効に活用させていただきます。



5. ご寄附いただいた方への特典

名古屋大学基金の特典に加え、以下のような医学部保健学科・医学系研究科(保健学)の特典を用意しております。

(1) 40口以上の寄附者

20万円以上（累計を含みます）ご寄附いただいた寄附者様のご芳名を医学部保健学科・医学系研究科（保健学）内の建物内の銘板に刻みます。



(2) 100口以上の寄附者

50万円以上（累計を含みます）ご寄附いただいた寄附者様には、銘板の掲載に加え、医学部保健学科長・医学系研究科保健学統括専攻長からの感謝状及び記念品の贈呈と医学部・医学系研究科主催の講演会や行事へのご案内をいたします。



2. 基金の管理運営方法

学内外の委員で構成する名古屋大学基金運営委員会及び医学部保健学・医学系研究科(保健学)に設置する運営委員会において事業計画等を審議し、医学部保健学科長・医学系研究科保健学統括専攻長の決定により支出します。

3. ご協力をお願いしたい寄附金

一口 5,000 円

本支援事業の趣旨をご理解いただき、なにとぞ2口以上のご協力をお願いいたします。

毎年入学する学部学生や大学院学生に対する支援のため、継続したご寄附をお願いいたします。

4. 寄附金の申し込み方法

下記にお問合せいただくか、あるいはインターネットから、「名古屋大学基金」で検索し、<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>「お申込み」のところから可能です。目的は「特定基金を支援する」、用途は「次世代保健医療リーダー育成支援事業」にてお願いいたします。

また、本支援事業へのご寄附については、税法上の優遇措置があります。

基金のお問い合わせ先

〒461-8673

名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

名古屋大学医学部保健学科・医学系研究科（保健学）

名古屋大学医学部・医学系研究科大幸地区事務統括課
（次世代保健医療リーダー育成支援事業事務局）

TEL：052-719-1504

E-mail：shomu1@met.nagoya-u.ac.jp

（基金全体について）

〒464-8601

名古屋市千種区不老町

名古屋大学Development Office（DO室）

TEL：052-789-4993

E-mail：kikin@t.mail.nagoya-u.ac.jp

HP：http://www.nagoya-u.ac.jp